

高台寺創建の背景

おね（秀吉の妻・寧々）は、長浜において、秀吉の血縁である加藤虎之助（[加藤清正](#)）、福島市松（[福島正則](#)）、おねの血縁である小早川辰之助（[小早川秀秋](#)）を養子として「母」としての役目を背負うこととなる。また、おねは、長浜の土豪の息子・石田佐吉（[石田三成](#)）を秀吉の小姓として育て上げていく。さらに、新しく織田信長に臣従した黒田官兵衛の子の黒田吉兵衛（[黒田長政](#)）のような人質も、決して粗略に扱わず我が子のようにして預かっていた。

本能寺の変の翌日、おねらは、それら子供達を連れて、長浜城から美濃国広瀬村（現在の岐阜県揖斐川町坂内広瀬）に逃げ難を逃れたとされる。これには広瀬村の城主・広瀬兵庫助の助けがあったとされるが、この逃避行はおねにとって生涯最大の危機であった。

この直後、秀吉は軍師官兵衛の力もあって「中国大返し」を成し遂げて、天下取りに向かうのだが、その際、おねに育て上げられた子供たちは秀吉の側近として活躍、秀吉の天下取りに貢献していく。

やがて秀吉が死んで、豊臣政権は、加藤清正、福島正則、黒田長政らおねのグループと石田三成のグループに別れて、内紛状態になっていく。そして、徳川家康の実力を認めるおねは、政権安定のため徳川家康に力を貸すのである。徳川家康自身の配下にも力のある武将は少なくないけれど、加藤清正、福島正則、黒田長政らおねのグループが力を貸したこそ徳川家康は天下を手中にすることができた。

秀吉が作り上げた政権を引き継いだ徳川家康は、寧々に感謝し、寧々の晩年の生活を助けるのである。そして創建されたのが高台寺である。

以上のことについては、「NHK番組・その時歴史が動いた」をご覧ください。

<https://www.youtube.com/watch?v=9pe9jkQXBk>

秀吉没後の権力者となった徳川家康は、北政所を手厚く扱い、配下の武士たちを高台寺の普請担当に任命した。中でも普請掛・堀直政の働きは大きかったようで、高台寺の開山堂には直政の木像が祀られている。